

びとう和広 市政報告

発行日：2019年1月1日

発行者：三田市議会議員
びとう 和広

市民に寄添い、夢ある市政を！



一般質問するびとう議員

12/11

びとう市議は、三田市議会定例会12月議会において、皆様の声をもとに、一般質問し、市の見解を求めました。

<びとう議員の三田市議会：一般質問>

1. 交通課題から見た三田の夢について
2. 新婚世帯の妊娠・出産支援について
3. ICTを活かした企業の誘致について

(問)：びとう質問概要

(答)：三田市答弁

(数)：質問項目

(び)：びとうの考え

本号では、12月に開催された三田市議会定例会の、びとう議員の一般質問における質問内容および三田市の答弁ポイントについて、報告致します。

1. 交通課題から見た三田の夢について

(問) 交通インフラは大課題で、災害時の孤立化、人口減少に伴う地域公共交通、老朽化、安全性、通勤時渋滞など、山積み状態です。現状のままでは全てが閉塞感で市は急激に衰退することが確実です。原点に立ち返り、通勤・通学課題を中心に、本来あるべき姿と、現状と対策提案を行ないました。

(1) 神戸電鉄公園都市線(横山ーウッディタウン中央駅)の延伸と新駅設置： 大阪や神戸等への通勤目的で造られたため、テクノパークや高校・高齢者への配慮不足で、昼の乗降が少ない。本来、学園近くやテクノパーク、できればつつじが丘まで延伸すべきではないか。

さらに、北摂三田高校前駅があれば、通学にも活かされる。

(2) JR駅の新設と各駅の拡充：

テクノパーク横を通りながら駅が無いので、三田駅や新三田駅からのバスか自家用車となっている。溝口駅を造ってはどうか。また、広野駅や相野駅の充実で通勤渋滞が緩和できるのではないか。

(3) 道路網の見直し：

神鉄延伸の計画が止まった段階で、見直すべきではなかったか。

(4) 通勤時バス優先路線の設定：

バスが渋滞で動けないから自家用車通勤では悪循環、時間帯を決めて、優先路線にしてはどうか。

(答) (1) 神戸電鉄公園都市線の延伸と新駅設置：

神戸電鉄はその意思がない。

(2) JR駅の新設と各駅の拡充： JRは地元請願の新駅設置の設備費は地元自治体負担が基本で、駅維持管理費以上の収益増の担保も求められる。

既存駅の機能拡充は、相野駅は現在整備中の市道下相野広野線の道路改良事業の完成によりテクノパーク方面への交通アクセスの拡充が図られる。広野駅は現在地元構想の土地区画整理事業で、駅前ロータリーなどが整備され、事業が実現すれば物理的にバスの乗り入れも可能となり、テクノパークへの最寄り駅として機能拡充が図られる。

(3) 道路網の見直し： テクノパーク接続の主要道路：三田幹線の交通量は片側2車線の道路設計上の交通量以下であり、物理的にも車線数増は難しい。

現在、市道下相野広野線に加え県道三田西インター線の道路改良事業も進められ、この2路線が完成すると、県道黒石三田線や国道176号からテクノパークへのアクセス向上が図られ、三田幹線に集中する通勤車両の分散につながるため、早期完成に努める。

(答) (4) 通勤時バス優先路線の設定：

三田幹線に優先路線を設けると残る一車線に車両が集中し、通勤車両に加え、一般車両や運搬車両も甚大な渋滞となり、交通管理上大問題となる。現状では実施は困難と考えている。

しかしテクノパーク周辺の交通対策は、テクノパーク企業協議会を通じて行ったアンケートや市民から、通勤時の渋滞対策を強く求められている。

現在策定中の地域公共交通網形成計画で、重要課題の1つと位置付け、通勤を自家用車から公共交通へシフトする手法として、鉄道とバスの連携機能強化などを盛り込む予定である。

実現に向け、関係者と議論を重ね、既存の公共交通機関の利便性向上と利用者増を図りながら、交通まちづくりの面から課題の解決とテクノパーク周辺地域の活性化に努める。

<びとうが提案した本来あるべき鉄道網>



(び) 神戸電鉄がテクノパークまで延伸すれば、朝はテクノパーク方面と三田駅方面の両方が使われる。さらに、つつじが丘まで延伸で、三田は大きく変わる。

北摂三田高校前駅や北ウッディタウン駅があれば、高校や大学の通学として使用する。北摂三田高校は、学校横に線路があり、駅を造るだけで良い。

昼は主婦や高齢者が買い物・病院に使う。休日はファミリーで移動する。本来は、1日の時間帯を多くの人たちが使うのが電車のあるべき姿で、京阪神への通勤に特化した計画が間違いと考える。

JR溝口駅はテクノパーク通勤や外来者の最寄り駅として、期待できる。

(び) 今回の質問は「夢」としました。実現は難しいが、現状のままでは、今後企業撤退など衰退の可能性もある。市の職員にその危機感が全く感じられない。お金が無い＝縮小では、衰退を早める。新たな計画を出すと言うが、現状をどう補うのか、本気度が問われます。

1. 交通課題から見た三田の夢について(続き)

<p>(問) (5)第三テクノパーク構想: 第二テクノパーク完売となる。職住近接を売りとし、交通課題を考えた第三テクノパーク構想を出す好機ではないか。</p>	<p>(答) (5)第三テクノパーク構想: 第二テクノパークは現在14社が進出決定し、残り1区画。50超の多様な優良企業は、市の持続的発展を支える活力基盤で、魅力あるまちづくりに向け、強固な連携に努める。第三テクノパーク構想は、現在具体的計画はないが、「生活・産業都市」への転換を進める上で、雇用の拡大・創出や産業振興は重要課題である。</p>	<p>(続き) 新たな産業集積の促進は、中長期的な視点で検討行う必要があり、現在策定中の「産業創造戦略」で、新たな産業集積の拠点として工場適地等の「調査・研究プロジェクト」を立ち上げる。通勤時等の交通問題の課題も考慮し総合的に検討する。</p>	<p>(ひ) 第二テクノパークは駐車場課題があり、従業員増は千人強。交通課題は、ここでも重要な誘致条件です。</p>
--	---	---	---

2. 新婚世帯の妊娠・出産支援について

<p>(問) 最近の風疹などの流行を受け、抗体検査や妊娠前診断が受けられる環境や不妊治療施設の充実、妊娠後の受診や費用支援を要望された。</p> <p>(1) 妊娠前診断と風疹等ワクチン接種の支援: 安心出産のため、診断・検査とワクチン接種の支援はどうか。</p> <p>(2) 産婦人科のかかりつけ医の誘致と助成: 三田には産婦人科が市民病院を含めて4院しかない。特にニュータウンに無いのは不安であり、誘致や助成はどうか。</p> <p>(3) 医療費の「妊婦加算」支援: 2018年4月導入された制度は、少子化対策に逆行している。医師への保護は分かるが、妊婦への負担増を軽減する支援が必要でないか。</p> <p>(ひ) 市答弁に「国の方針を注視」というのが多く、市は何もしない。今回は国の対策で対応できそうですが、当事者は困っています。まず「困っている人に寄り添い一緒に考える」姿勢を求めました。チャッピーサポートセンターの相談受付は、ワンストップで良いのですが、案内する受け皿が少ないことが三田の課題で、周辺市との連携強化も重要です。妊婦加算を単に凍結では、本来の主旨に反します。</p>	<p>(答) (1) 妊娠前診断と風疹等ワクチン接種の支援: 専門分野のサポートや妊娠前診断や専門的医療サービスの環境が重要で、受け皿強化が必要である。</p> <p>チャッピーサポートセンターでは、妊娠前相談に積極的に対応し、情報提供や妊娠出産ネットワークを生かして支援し、妊娠前診断等のサポートも行なう。</p> <p>風疹は、現在首都圏を中心に流行し、国が感染拡大対策を強化する考えであり、市は現在広報等で予防について市民への周知啓発に努めている。風疹ワクチン接種の支援助成は、今後の国の方針を踏まえ、検討・判断する。 <国予算で対応する></p>	<p>(答) (2) 産婦人科のかかりつけ医の誘致と助成: 産婦人科かかりつけ医は、妊娠期の安心とリスク軽減に必要だが、全国的な医師不足、特に産婦人科医が激減し、産婦人科医の誘致や助成は難しい。</p> <p>2018年4月策定の県保健医療計画でも、周産期医療の課題=全県的な産婦人科医不足により分娩取扱施設が減少する中、地域の周産期医療体制の見直しが必要、とある。</p> <p>具体策として小児・周産期医療体制は、神戸三田圏域の中で相互連携した医療確保を推進する旨、明記され、当面は三田市内の産科医院3院を加え、神戸市北区など近隣地域の医療機関を紹介するなど、広域的な連携で取り組む。</p>	<p>(答) (3) 医療費の「妊婦加算」支援: 「妊婦加算」は2018年4月診療報酬改定時に創設された制度で、妊婦に一定の医療水準を担保する一方で、若い世代への経済的負担の軽減を指摘する意見もある。</p> <p>保健医療制度における問題のため、国の動向を注視しながら、現時点では、市として妊婦加算に対して特段の助成等の対応は予定していない。</p> <p><2019年1月凍結に></p>
---	--	---	---

3. ICTを活かした企業の誘致について

<p>(問) (1) 全市光回線敷設完了を基盤に「超高速ブロードバンド環境」の整備: 三田全域に光回線が敷設できた。第5世代移動通信システムの環境整備を進めてはどうか。</p> <p>(2) 学校資産を企業誘致に活用: 三田市内の学校再編が進められている。空き学校を地域イニシアチブで活用する際、企業誘致を入れてはどうか。</p> <p>(3) ICTを活かした企業誘致の考え方: 積極的な誘致活動はどうか。</p> <p>(ひ) 最近の大災害頻発により、都心企業が危険分散として、データや事務所の分散を考えています。地震に強い三田市は、有力候補と成りえます。ICT環境の一層の整備により、サテライトオフィス誘致を積極的に進めるチャンスです。先手の基盤整備が重要です。</p>	<p>(答) (1) 全市光回線敷設完了を基盤に「超高速ブロードバンド環境」の整備: 2016年度から3年で市内光回線サービスの民間事業者の整備が完了し、光回線インターネット接続サービスが開始し、有線通信、携帯電話網無線通信ともほぼ市全域で高速ブロードバンドが整った。</p> <p>さらなる高速通信環境の整備は、今後大幅な通信量増加が予想され、一層の高速通信環境の整備が必要となる。</p> <p>第5世代移動通信システムは2020年サービス開始に向け総務省や通信直業者等により準備が進められ、現在の10倍の通信速度の光回線サービスも一部開始している。三田市もさらなる高速化や第5世代移動通信システムの展開など、国・通信事業者の動向を注視する。</p>	<p>(答) (2) 学校資産を企業誘致に活用: 小中学校は、既に超高速ブロードバンド環境が整備され、学校再編後の施設を事業者のオフィスや起業・創業の場として活用する事はICTを活かした企業や事業者等を誘致する手段の1つとして有効である。</p> <p>再編後の学校資産の活用は市全体のまちづくりの視点から様々な可能性を、事業者の需要把握にも努めながら幅広く検討する。</p>	<p>(答) (3) ICTを活かした企業誘致の考え方: 策定中の「三田市産業創造戦略」で従来のものづくりだけでなく革新的な情報技術の活用を推進し、新商品やサービスの開発、地域資源を活かした新たなビジネスモデルの創出など、次世代に対応した取り組みを進める。</p> <p>ICT利活用分野では、生産性や利便性が向上し、事業者は働く場所や時間にも柔軟に対応でき、地方でも都市部と同様の仕事が可能になる。</p> <p>自然環境や交通アクセス等の利点を活かし、産業創造戦略に基づく本市の取り組みや立地の優位性を広く発信し、企業や事業者等の誘致に必要な支援や仕組みづくりに取り組む。</p>
--	--	---	---

<自宅> 〒669-1537 三田市西山2丁目11番13号
 Tel: 079-562-8653, Fax: 079-562-0730
 <電子メール> bit@venus.dti.ne.jp
 <ホームページ> <http://www.bitto-kazuhiro.com>



三田市議会議員

かずひろ
 びとう 和広

